

森田雄三郎氏の逝去を悼む

本学会員で、有賀・武藤両先生の門下生として宗教哲学、組織神学の分野で活躍された氏が二〇〇〇年四月二十五日逝去された。

略年譜

- 一九三〇年 一月 大阪府堺市に生まれる。
- 一九四七年 四月 旧制第三高等学校入学。
- 一九五〇年 四月 京都大学文学部(旧制)入学、哲学専攻。
- 一九五三年 四月 同文学部大学院(旧制)入学、基督教学専攻。
- 一九六一年 四月 同志社大学商学部専任講師(宗教学担当)。
- 一九六三年 四月 同志社大学商学部助教(宗教学担当)。
- 七月 フルブライト留学生としてユニオン神学校留学。
- 一九六四年 五月 ユニオン神学校STM課程修了。
- 一九六九年 四月 同志社大学商学部教授。
- 一九七五年 一月 『キリスト教の近代性』により京都大学文学博士。
- 一九七二年四月より九五年三月まで同志社大学文学部ならびに

森田雄三郎氏の逝去を悼む(高野)

一九九五年 三月 同大学院文学研究科(宗教哲学)兼任。定年により同志社大学を退職。

同志社大学名誉教授の称号を受ける。

一九九六年 四月 大阪学院大学国際学部教授。

一九九九年一〇月 大阪学院大学退職。

二〇〇〇年四月二十五日午前三時三五分 永眠。

著書 (一)キリスト教の近代性 一九七二、(二)シュヴァイツァー、(三)ユダヤ思想 一九八五(共著)

学会活動 日本基督教学会幹事を経て理事(二九八一—一九九

九)。学会誌編集委員(一九七〇、七一、七二、八五より九

六まで)、編集委員長(一九九七、九八)。

日本宗教学会 多年にわたり評議員

筆者の学生時代、日本の神学界はバルト、ブルトマンが主流

であったように思う。この風潮のなかにあつて氏は一九世紀の

神学にも真剣に取り組んでいた数少ない一人であつた。ここに

日本の組織神学における氏の位置があつた。最近ドイツ一九世

紀の自由主義神学が見直され出している。この見直しに氏も参

加することが出来れば日本の神学、宗教哲学のために貢献する

ことが出来たと思われる。筆者は氏とトレルチの共訳をさせて

もらったことがある。氏の仕事の速いのに驚かされた。

氏のご冥福と京子夫人、ご子息たちのご多幸を祈る。

(高野晃兆記)